

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

さて、随分前に『微苦笑俳句コレクション』江國滋^{えくにくにほ}編著^{しゅうぎょうの にほんしゃ} (実業之日本社) で読んだ句の中に、こういう作品がありました。作者は、江隈^{えきま}順子^{のりこ}さん。

卒業歌あの先生が泣いてはる

¹ 印象が強い。なぜか。

編者江國氏は《べつにどうということもない句だが、「あの先生」の「あの」がいい》といます。しかし、わたしには《あの》も、別に《どうということはない》ものに思えたのです。「A」どこに魅かれたのかというと、《は》です。《い》ではない、という一点です。

仮にこれが《卒業歌あの先生が泣いている》だったら、ただのつぼやきです。² 文字にする意味もない。

ところが、《泣いてはる》は、いわゆる共通語ではありません。それを使ったことによつて、通常の卒業式のそれとは違う、柔らかな空気に辺りが包まれます。

内容からいっても当然そうですが、この調子だけでも、《泣いてはる》と思つたのは女学生でしょう。普段は活発な子かも知れないが、卒業式という場であるだけに、いささか、おとなしくなっている。しかし、泣いてはいません。

その瞳に、豪快そのものような男の先生——生徒指導などを担当して、三年間、煙^aつたがられて来たような先生の姿が映る。彼の無精髭^{むせひげ}の似合いそうな頬に、一筋の涙が伝っている。そういう情景が浮かびました。

《男》というのは、見ている主体が女学生ですから、それと比べた時、³ 《秤^{はかり}の向こう側に置かれるのはより対照的な存在であるべきだ》と感じたからでしょう。実際には直観なので、理屈は後から追いかけたものです。

とにかく、《卒業歌あの先生が泣いている》なら、それだけで終わつてしまうものが、一字替えただけで、きちんと一つの空間を作っている。関西弁の力を感じます。わたしには、そこが印象深かつたのです。

江國氏は、《ふだん、生徒から鬼のように恐れられている、きびしいだけの女性教師だろう》といます。それがまた面白くて、人に会つた時、

「この先生は、どんな人だと思います？」

という問いを投げかけると、思ひは様々。男説、女説、それぞれにありました。「B」、最近、ある女の方が、見ている生徒について男子説を唱えたのです。まったく考えてもいなかったので、びっくりしました。

どういうわけで、そう思うかというと、《女性が卒業式などでセンチメンタルになる》というのは、一方的な思い込みで、むしろ、そういう時には、冷静なのだそうです。教師が、の目にも涙を見せたぐらいでは《泣いてはる……》とはならない。《泣いてはる》はあつても、《……》の部分はない、とおつしやる。むしろ、そういう、よくいえば純情、悪くいえば単純な反応は男に似合う、という説でした。

さあ、そうなると、男も《泣いてはる》というのだろうか、と思いました。確かに、上方落語などを聴くと、男性の登場人物も《居てはりますかあ？》などといいます。辞書を見ると、関西弁の《はる》は、尊敬、まれに丁寧とありました。となれば、面と向かつていうのならともかく、内面の思いなら、男とは感じられません。《先生、泣いてるぞー！》というのが、男の心の言葉でしょう。《泣いていらつしやるー！》とは思わない。

とにかく、こうなつたら、現地の方に確かめるのが一番だと思つて、大阪の有栖川^{ありがわ}有栖^{ありがわ}さんに電話しました。

事情を手短かに説明して、うかがうと、

「《泣いてはる》——なら、男もいうでしょうねえ。ただ、普通には、《泣いとる》かなあ」

というご返事。

「《泣いとる》は、女は使いませんか」

「いや、使います。男言葉というなら、《泣いとる》とか、《泣いとるで》でしょうね」

「はあ」

「しかし、そうなると、好感を持つたいい方ではありません。《あの先生が泣いとるで》となつたら、《いつも、偉そうなこといつとるあの先公が泣いてやがるぜ。けつ！》といった感じですね」

「そうですか。《泣いてはる》だと、物柔らかな感じがするんですけどねえ」

そう、お話しして、受話器を置きました。

夕方、今度は有栖川さんの方から電話がありました。これが、わたしには実に意外な電話だったので。

「もしもし、先程の件ですけど」

「はい」

「あれ、うちのが帰つて来たんで、聞いてみたんですよ。そうしたら、あの句の《生徒》ね——」

⁴ 嬉しそうな声である。何だろう、と思う。

「はい？」

「——《男》だつていうんですよ」

⁵ 二人目の、男子生徒出現である。

「どうしてまた？」

「いやあ、北村さん、さつき、《泣いている》から《泣いてはる》に一字替わつたから、柔らかな世界になつたとおっしゃつたでしょう。黙つて聞いてましたけど、我々だと、そうも思わないんですよ」

「は？」

「つまり、関西に住んでたら、《はる》は当たり前なんです。普通にしゃべつてる言葉ですから。つまり、北村さんのいう《卒業歌あの先生が泣いている》と同じ語感なんですね」

これには、⁶ 虚をつかれた。

「女生徒が《あ、あの先生が……》と思うんじゃないやあ、当たり前過ぎるというんですよ。それなのに、わざわざ句になつていて。ということは、ちよつと斜に構えているんじゃないか。そこで、《おいおい、あいつが泣いてるぜ》という気持ちで《泣いてはる》。だから、男じゃないかというんです」

「なるほど」

「うちのは京都に知り合いが多いんですが、京都は大阪より、《はる》に敬語の度合いが少ないらしいです。《泣いてはる》といったのが男でも、全く不自然ではないそうです」

狭い日本です。「C」、どこに住んでいるかで、言葉の感じ方にも、これだけの差が出て来るのだと、改めて感じ入りました。詩は翻訳不可能といわれますが、⁶ 同様の問題が国内でも起こり得るわけです。

この句に関していうなら、作者が仮に関西在住の方でも、まず、《共通語で作る》という前提があると思います。その上で生まれた《卒業歌あの先生が泣いてはる》でしょう。「D」、作品なのだと思います。

地方の言語で書かれた詩や文章には、その響き、香りで、まず我々を衝つものがあります。それだけ生々しい生命力が、言葉にあります。それは間違いないことだと思います。しかしここで、共通語を知らず、その言語だけで育つた人の耳に、心に、それがどう響くのか——ということを考えました。⁷ それは、もはや永遠の謎なのかも知れません。

(北村薫『詩歌の待ち伏せ』による。一部改変)

問一 空欄「A」～「D」に入る語として最も適当なものをそれぞれア～エから一つ選び、符号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|-------|--------|--------|--------|
| A | ア だから | イ あるいは | ウ たとえば | エ では |
| B | ア つまり | イ ところが | ウ それとも | エ なぜなら |
| C | ア しかし | イ あるいは | ウ つまり | エ では |
| D | ア だから | イ ところが | ウ それとも | エ なぜなら |

問二 空欄「」に入る漢字一字を本文中より探して書きなさい。

問三 波線部 a～c の本文中における意味として最も適当なものを、それぞれア～エから一つ選び、符号で答えなさい。

- | | | | |
|---|---------|---------------|---------------|
| a | 煙つたがられて | ア 批判されて | イ 嫌がられて |
| | | ウ 無視されて | エ 恐れられて |
| b | 虚をつかれた | ア むなしくなった | イ しらじらしくなった |
| | | ウ 予想外のことで戸惑った | エ 突然のことで驚いた |
| c | 斜に構えている | ア 温かい目で見ている | イ 柔軟な見方をしている |
| | | ウ 皮肉な目で見ている | エ 変わった見方をしている |

問四 傍線部 1「印象が強い。なぜか」とあるが、この問いに対する答えを本文中の言葉を使って、三十字以上、四十字以内で書きなさい。(句読点や括弧も字数に含む)

問五 傍線部 2「文字にする意味もない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものをア～エから選び、符号で答えなさい。

- ア 多くの人にとって卒業式の情景を想像するのは容易だから。
- イ 単なる独り言になってしまい誰かに伝える必要がないから。
- ウ 卒業式には文字だけでは表せない強い思い入れがあるから。
- エ 短い文はわざわざ書き記さなくても簡単に覚えられるから。

問六 傍線部 3「理屈は後から追いかけたものです」とあるが、「理屈」とはどういうことか。その説明として最も適当なものをア～エから選び、符号で答えなさい。

- ア 《泣いてはる》と思つたのは女子生徒で、《あの先生》は男性教師だという考え。
- イ 共通語ではない《泣いてはる》を使つたことで、卒業式の情景が柔らかな空気に包まれるという考え。
- ウ 江國氏の褒めた《あの先生》の《あの》よりも、《泣いてはる》の《は》がこの句の魅力となっているという考え。
- エ 《あの先生》が男性教師だと想像したのは、《泣いてはる》と思つた女子生徒と真逆のイメージを持っているからだという考え。

問七 傍線部4「嬉しそうな声である」とあるが、有栖川氏はなぜ嬉しそうだっただと考えられるか。その理由として最も適当なものをア～エから選び、符号で答えなさい。

- ア 関西人にとって《泣いてはる》は《泣いている》と同じ語感だという妻の意見が自分の抱いた印象と同じで、《泣いてはる》と思ったのは男子生徒だという妻の主張に納得できたから。
- イ 《泣いてはる》と思ったのは女子生徒だという筆者の解釈を、《泣いてはる》は男子生徒もよく使う言葉だという妻の説明によって論破することができると思ったから。
- ウ 《泣いてはる》という言葉は関西人ならみな同じ意味で使っていると思い込んでいたが、妻の指摘で大阪と京都では《泣いてはる》のニュアンスが異なるということに気づいたから。
- エ 《泣いてはる》と表現することでこの句の世界が柔らかくなっているという筆者の主張を、《泣いてはる》は日常の言葉だという妻の証言によって裏付けることができると思ったから。

問八 傍線部5「二人目の、男子生徒出現である」をわかりやすく説明したのとして最も適当なものをア～エから選び、符号で答えなさい。

- ア 実際の卒業式では《あの先生》が《泣いてはる》と思った男子生徒が二人いた。
- イ 《泣いてはる》と思ったのは男子生徒だという説を主張する人がもう一人いた。
- ウ 女子生徒だけでなく男子生徒も《あの先生》が泣いていることに気づいていた。
- エ 男性教師のほかに男子生徒も泣いていたと、この句の情景を想像する人がいた。

問九 傍線部6「同様の問題」とはどういうことか。その説明として最も適当なものをア～エから選び、符号で答えなさい。

- ア 言語の特性を知らないと詩を理解するのは難しいということ。
- イ 同じ詩を読んでも想像する情景は一人ひとり違うということ。
- ウ 言葉のニュアンスや感じ方には地域差があるということ。
- エ 文化の違いで詩に対する評価が変わるということ。

問十 傍線部7「それは、もはや永遠の謎なのかも知れません」の「それ」は何を指しているか。その説明として最も適当なものをア～エから選び、符号で答えなさい。

- ア 《泣いてはる》と思ったのは女子生徒か、男子生徒か。
- イ 《泣いてはる》という言葉には敬意が込められているかどうか。
- ウ 地方で使われている言葉と共通語にはどのくらいの違いがあるのか。
- エ ある地方の言葉がその地方の人たちにどのように受け止められているか。

二 次の問いに答えなさい。

問一 傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のア～エのうちから、それぞれ一つずつ選び、符号で答えなさい。

- ① インシツないやがらせに耐え抜いた。
- ア 観客をドウインする。
- イ ゴウインな勧誘に困惑する。
- ウ 鳥取砂丘はサンインの名所だ。
- エ ヨウインを分析する。
- ② 人の第一印象はセイケツ感が大切です。
- ア ボケツを掘る。
- イ 車両をレンケツする。
- ウ シンケツをそそぐ。
- エ カンケツな文章を書く。
- ③ 彼女の意見には批判もあるものの、ヨウゴする人も多い。
- ア ソウゴに助け合う。
- イ 献身的にカンゴする。
- ウ カクゴを決める。
- エ イゴを楽しむ。
- ④ その政策はコウサイがあるが、経済の発展には必要な一歩だ。
- ア 彼は、地方文化の発展に大きなコウセキをあげた。
- イ コウゴと文語を区別する。
- ウ コウミョウな演出に感心する。
- エ ようやくこの問題に解決のコウミョウを見出せた。
- ⑤ 彼は家事にシユウジユクしている。
- ア 過分なホウシユウを手にする。
- イ 事態をシユウシユウする。
- ウ 村のカンシユウを守る。
- エ シユウギョウ規則を確認する。

問一 各文中にまちがって使われている漢字が一字ある。解答欄の上段に誤った漢字を、下段に正しい漢字を記入しなさい。

- ① 異常な湯水は極地的なものらしい。
- ② すばらしい評価に、今までの努力が報われた気がして、有頂点になった。
- ③ 協会から選手のために便義を図るよう依頼された。
- ④ 彼女は今やその悲惨な事件の禍中の人となった。
- ⑤ 彼は二大会連続で金メダルを取るという破天候な成績を残した。

問二 ①～⑤の四字熟語の空欄にあてはまる漢数字を書き入れ、それぞれの熟語の意味を次のア～オから一つずつ選び、符号で答えなさい。符号は一度だけ選択すること。

- ① 森羅 象 ② 期一会 ③ 面楚歌^せ ④ 里霧中 ⑤ 律背反

ア まわりが敵や反対者ばかりで、味方のないこと。

イ 物事の様子が分からず、方針や見込みが立たないこと。

ウ 自己矛盾におちいること。

エ 宇宙に存在する、すべてのもの。

オ 出会いを大切にすることのたとえ。